

シンポジウム

第21回農薬製剤・施用法シンポジウム

日時：平成13年11月1日（木）～2日（金）

場所：ホテルおかだ（神奈川県足柄下郡箱根町）

主催：日本農薬学会 農薬製剤・施用法研究会

協賛：農業機械学会，雑草学会，粉体工学会，日本化学会，高分子学会，
色材協会，日本油化学会，日本液体微粒子化学会

第21回農薬製剤・施用法シンポジウムは11月1～2日の2日間箱根のホテルで開催された。参加者は224名と盛会で、海外からの参加者は13名であった。

発表は特別講演3件，技術研究発表10件，フォーラム2件およびポスターセッション5件であった。

特別講演は，先ず Syngenta の Mulqueen 氏に“Trends in Pesticide Formulation and Application Technologies in Europe”という演題でヨーロッパにおける農薬製剤・施用法の現状および今後の動向について講演を頂いた。海外の動向を知る上で非常に参考になったと思われる。次いで，ポーラ化成工業の鷺谷広道氏に“エマルジョンの作製技術”と題して理論を交えた各種エマルジョンの作り方の話をさせて頂いた。農薬製剤ではエマルジョン化技術は欠かせないものであり，製剤研究者にとって勉強になったと思われる。最後に日本農薬の柴山正一氏に“生産現場からみた農薬製剤”と題して講演を頂いた。柴山氏は研究所と工場の両方を経験されている方であり，農薬製剤の研究レベルと生産現場とのスケールギャップの問題や生産現場での苦労などについて話された。研究段階では思いも至らない苦労話などがあり，非常に興味深い話を頂いた。

技術研究発表は下記10件行われ，製剤，施用法および資材関連などに亘っての内容で非常に興味ある発表であった。

1. ピリプロキシフェンを含有するテープ製剤 [第3報]
井上雅夫，中村知史（住友化学工業(株)農業化学品研究所）
2. パルス型薬物放出デバイスの設計
牧野公子（東京理科大学薬学部）
3. ゲルタイプ「カープレックス BS-312」の顆粒水和剤用担体への展開
濱野英明（塩野義製薬(株)工業薬品部）
4. Foam Control Agents for Trisiloxane Alkoxylate Based Adjuvants
K. Koczó, R. A. Ness, G. A. Policello (Crompton

Corporations)

5. Some Applications of Narrow Range Ethoxylate Surfactants in Agriculture
Paul L. Griffiths, Andrew F. Kirby, Ashley S. Martin (Huntsman Corporation Australia Pty Limited)
6. 新規省力型製剤のRCヘリ散布への適用性検討
赤司宗貴，大川哲生，藤田茂樹，加藤進（クミアイ化学工業(株)化学研究所）
7. 液剤地上散布に関与するノズルの諸特性—少量散布用ノズルの開発—
宮原佳彦（生研機構 生産システム研究部）
8. RI化合物を使用しないクチクラ膜透過量測定方法とアジュバント効果の解析—トリアジン系除草剤のアジュバント探索へのアプローチ—
前川祐一，橋本成三，勝浦喜代志（日本曹達(株)小田原研究所製剤研究部）
9. グリホサートの土壌吸着に及ぼすpH，塩，界面活性剤の影響
佐藤達雄，中村直紀（日本モンサント(株)製剤技術研究所）
10. Water Dispersible Granule: Granulation Processes and Formulation Strategy
Dan Haggard (Crompton Corporation)

フォーラムでは以下に示す2件の国際学会参加報告が行われた。

1. CIPAC/FAO Meeting 参加報告
桑田貴子（三井化学(株)ライフサイエンス研究所）
2. 第6回国際農薬アジュバントシンポジウム参加報告
前川祐一（日本曹達(株)小田原研究所製剤研究部）
ポスターセッションでは製造装置や物理性試験装置の5件の発表が行われ，多数の参加者の関心を集めていた。
なお，次回のシンポジウムは平成14年10月24～25日に静岡で開催する予定になっています。多数の方々のご参加をお願いします。（北興化学工業(株)米村伸二）